

〈スライド 1〉



【Enter】キーでタイトルが表示されます。

〈スライド 2〉



ロティは、1840年12月にアメリカのヴァージニア州で生まれました。

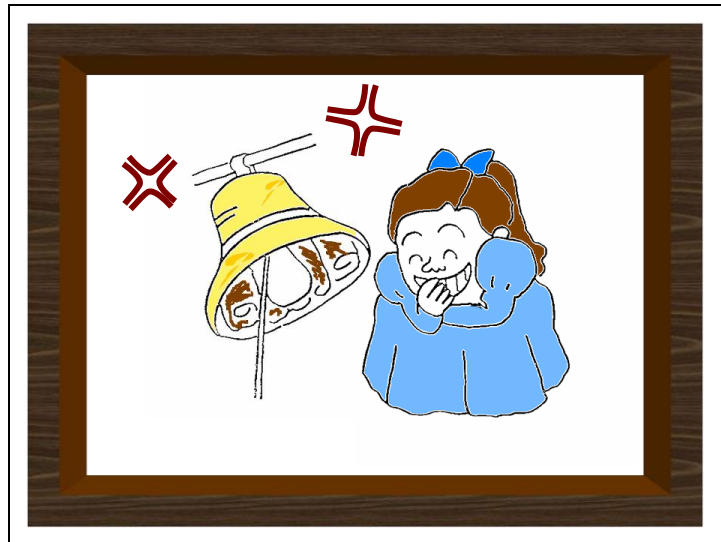
「神さま、わたしたちにロティを与えてくださってありがとうございます。」

ロティは元気に大きくなりました。

学校では人気者。

いたずらが大好きでした。

〈スライド 3〉



校長先生「なんていうことでしょう。朝の鐘が6時にならないなんて！いったい誰のいたずらですか！」

友人「校長先生、かんかんだわ」

友人「きっとロティよ。やったわね！」

ロティ「ウフフッ 塔の鐘に毛布をつめちゃった。これで朝のチャイムがならないわ。鐘に支配されるのなんて、わたしはいやよ！」

〈スライド 4〉



勉強も良くできました。とくに外国語の勉強がとくいでした。
本もよく読みました。哲学に興味を持っていました。

聖書も読んでいましたが、神さまがいらっしゃることを心から信じることができないういました。

そんなある日、友人から伝道集会に誘われました

友人「ねえロティ、ドクター・ブロダースの特別伝道集会があるのよ。一緒にお話を聞きに行きましょうよ」

ロティ「うーん、私、宗教にはあまり興味がないの。冷やかしか分じゃ悪いでしょ？」

友人「ううん、そんなことないわ。一緒に来てくれたらとてもうれしいわ！」

〈スライド 5〉



その夜、ロティの人生にとって、とても大きな出来事が起こりました。特別伝道集会で、イエスさまとであったのです。

「神さま、神さまがいらっしゃることに、わたしを愛してくださっていることがわかりました。これから、神さまに従って歩みたいと思います。どうぞ導いてください。」

ロティは一晩中神さまにお祈りしました。

〈スライド 6〉



おとなになったロティは、学校の先生になりました。先生の仕事をしながら、教会のお手伝いも一生懸命しました。そして、まだ神さまを知らない世界中の人に、神さまのことを伝えたいと、いつも考えていました。

宣教師として中国に行っていた妹のエドモニアから、手紙が来ました。

〈スライド 7〉



手紙「ロティ姉さん元気ですか？私はこの国に来て、驚くことがいっぱいです。ここは神様のお話をまだ一度も聞いたことのない人たちで満ちています。ここで神様を伝えることは大変です。働き人が必要なんです。

この手紙を読んだロティは、決心をしました。

「神さま、わたしが何をしたらいいのか、教えてくださいありがとうございます。わたしは中国に行きます！」

危険な船の旅でしたが、2ヶ月かけて、中国にわたりました。

〈スライド 8〉



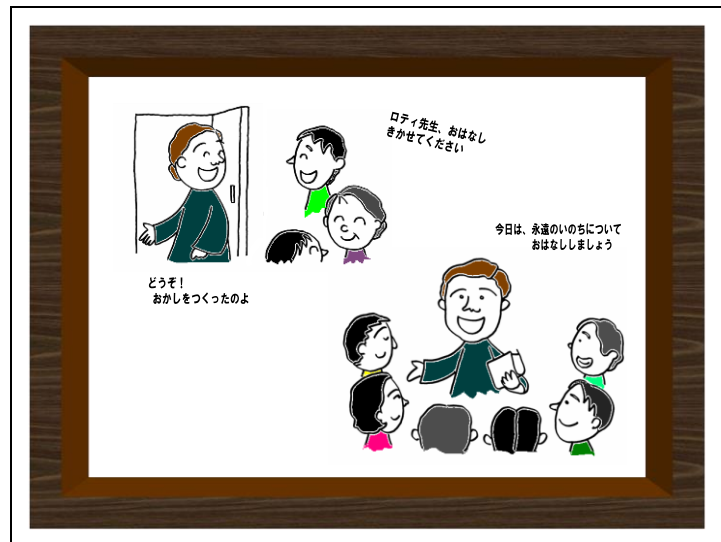
中国での伝道が始まりました。

ロティ「神さまはわたしたちを救ってくださいます」
中国の人「そんな話信じないぞ。だまされるもんか！」
中国の人「外国の神様の話なんか信じるかるものか！」

はじめはなかなか話を聞いてもらえませんでした。

それでも神さまの愛を伝えつづけるロティに、人々はだんだんに心を開き・・・

〈スライド 9〉



中国の人「ロティ先生こんにちは。神様のお話聞かせてください」

ロティの家にたずねて来たり・・・

話に来てくれるのを楽しみに待っていてくれるようになってきました。

ロティ「さあどうぞ、お菓子を作ったのよ」

中国の人「私たち最初は『このおかしには毒が入ってる!』なんて言って・・・先生、あの時は本当にごめんなさい。」

ロティ「来てくれてうれしいわ。さあ、今日は永遠の命についてお話ししましょうね。」

ロティはたくさんの村をまわって、イエスさまを伝え続けました。

〈スライド 10〉



・・・でも、中国はとてとても広いのです

ロティ「農村の人々は福音に耳を傾けてくれるようになった。
でも私だけではどうにもならない・・・。
聖書の話聞いたこともない人が、中国にはまだまだたくさんいる。もっとも
っと伝えたい。手伝ってくれる人が必要だわ。」

〈スライド 11〉



ロティは何度も何度もアメリカに手紙を書きました。

バプテスト教会のみなさん

どうぞ、宣教師を送ってください。聖書のお話を待っている人がたくさんいるのです。はたらき人が必要です。そのためのお金が必要です。どうぞ、世界の人に伝道するために、献金を送ってください。 ロティ・ムーン

そしてその手紙の中でクリスマス前の1週間、世界の人のお話を覚えて祈り、献金することを、提案しました。

〈スライド 12〉



米国の女性「ミス・ムーンは中国で本当に苦労しながら働いておられるのね」
米国の女性「私たちもちゃんとした組織を作って、お祈りとささげ物のネットワークを作りましょうよ」

ロティの手紙を読んだたくさんのアメリカの女性たちが、この提案に賛成し、
世界の人に神さまのことを伝えるために南部バプテスト婦人宣教団体WMUが誕生し、
みんなで力を合わせ、お祈りと献金の活動を始めました。
これが世界バプテスト祈禱週間の始まりです。1888年のことです。

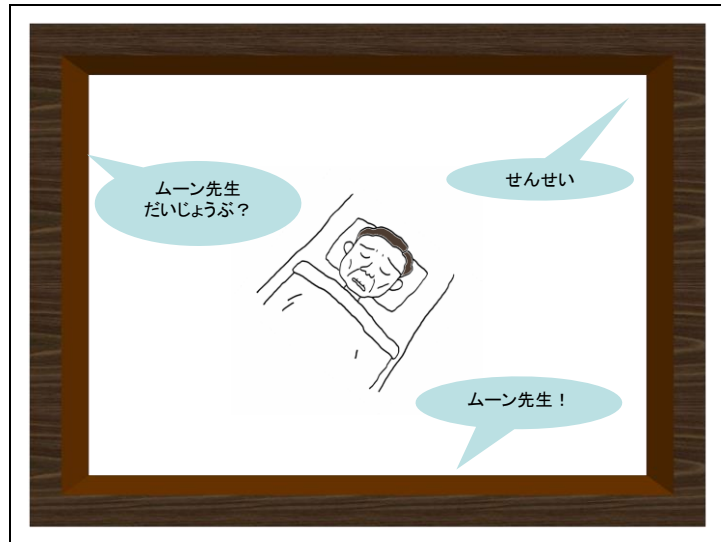
〈スライド 13〉



聖書の話しをしたり、病気の人々の看病をしたり、ロティは自分の時間と力のすべてを、中国の人々のために使いました。たくさんの方が、ロティを通してイエスさまと出会うことができました。

14年間、アメリカに帰ることも、家族に会うこともがまんして働き続けました。

〈スライド 14〉



その頃の中国では飢饉が起こり、多くの人がなくなっていました。

中国の人「ムーン先生、大丈夫ですか？」

ロティ「大丈夫、ちょっとやすんでいるだけよ」

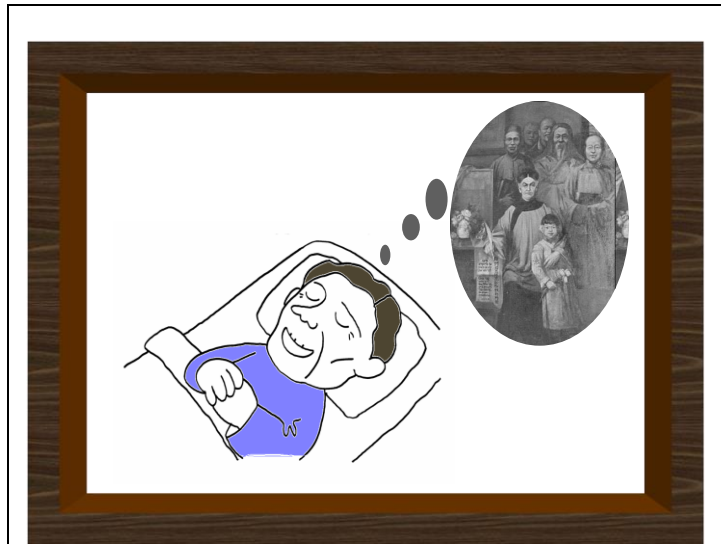
中国の人「先生、こんなにやせてしまって・・・。これ、少しでも食べてください」

ロティ「ありがとう。でも、この食べ物はあなたたちの口に入ったほうがいいのですよ。年老いた私には、せっかくの食べ物はもったいないの」

ロティは自分の食べるものも分け、中国の人とともに苦しみ、助けようとしてきました。

ロティの体もだんだん弱ってきました。

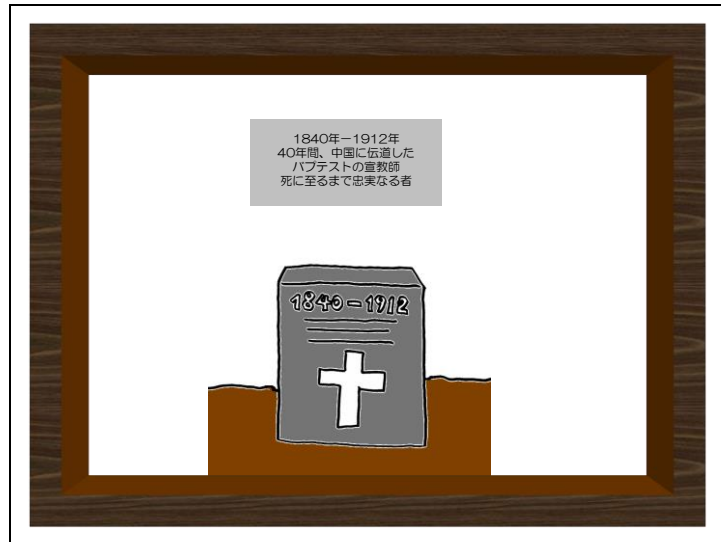
〈スライド 15〉



1912年、弱ったロティを乗せた船が、上海からサンフランシスコに向けて船出しました。そして12月24日、クリスマスイブの日に、神戸の港に立ち寄った船の中で、愛する中国のクリスチャンの名前を呼びながら神さまのもとに召されていきました。

40年間中国で伝道し続け、中国を愛し、中国の人々に愛されたロティ・ムーン、72歳の生涯でした。

〈スライド 16〉



そのお墓(はか)には

1840年-1912年 40年間、中国に伝道したバプテストの宣教師 死に至
るまで忠実なる者
と書かれています。

〈スライド 17〉



ロティの提案で始まった世界伝道のためのクリスマス献金は、世界中に広がりました。日本でも、毎年11月の最後の日曜日から12月の最初の日曜日までの8日間を世界バプテスト祈禱週間として、特に世界のことを覚えて祈り、献金を捧げています。

〈スライド 18〉

